



相生橋から原爆ドームを望む

原水禁 広島大会

8月4日(火)、平和記念資料館から県立総合体育館までの平和行進を皮切りに、被爆70周年の原水禁世界大会 広島大会が始まりました。福井県教組からは26名が参加しました。



犠牲者への黙とう後、川野浩一大会実行委員長は被爆についての認識が風化している問題点を指摘することに加え、安倍内閣による戦争法案制定の動きを強く批判、核兵器廃絶と戦争法案廃案を訴えました。

85歳になる切明千枝子さんの被爆時の体験と訴え

みなが全身にやけどを負い、その治療もままならないまま死に直面したこと。友だちや下級生の遺体を焼かなければならなかったこと。これが戦争であり、二度と起こしてはならない！

その後、大会の基調提案を藤本泰成 大会事務局長が行いました。安倍首相の侵略戦争と植民地支配を覆い隠す姿勢を、命を軽視するものとして強く批判し、戦後70年、原水禁50年の言葉を噛みしめてがんばろうと訴えました。

5日(水)は、分科会・ひろばや国際会議、子どものひろばなど、多彩な取り組みが行われました。分科会は「脱原子力」「平和と核軍縮」「ヒバクシャを生まない世界に」などの課題別に7つ開催されました。「バスツアー大久野島『ヒロシマと戦争』」のような、一日がかりのフィールドワークもありました。「見て、聞いて、学ぼうヒロシマ」分科会では、被爆体験者である桑原ちよ子さんの話を聞きました。戦争の悲惨さを次の世代へ受け継いでいかなければと感じました。



被爆体験者 桑原ちよ子さん

6日(木)は平和祈念式典が行われました。松井一実 広島市長は平和宣言の中で、被爆者の叫びを「広島をまどうてくれ！（元に戻してほしい）」という方言で訴えました。宣言は世界各国に送られ、これからも核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現を訴え続けていきます。

また、原爆の投下された8時15分には平和の鐘やサイレンを鳴らして、式典会場、家庭、職場で原爆死没者に哀悼の意を表し、あわせて恒久平和の実現を祈り、1分間の黙とうを行いました。

<参加者の感想>

- 分科会では、被爆者の体験談を直接拝聴でき、原子爆弾の怖さを感じるとともに被害者がずっとつらい思いをしながら現在にいたっておられることもよく分かりました。
- 原爆という大量破壊兵器により多くの国民が殺されました。しかし、日本も毒ガスという大量殺りく兵器により多くの外国人（中国人）を殺していたのです。戦争は、被害を受けるだけでなく相手にも被害を与えることを忘れてはならないと強く感じました。



「私たちの国は戦争による問題解決は望みません。だから、武力による攻撃、武力による問題の解決はやめてください。」と全世界に叫び続けることが原爆を投下され、空襲という無差別攻撃を受けた日本の使命ではないだろうか。



核兵器は絶対悪！